

設計主旨

私は、課題趣旨である「環境に調和する家」を考えていく中で、私が育った大分県日田市に着目しました。

日田市では、昔から洪水や氾濫などの自然災害が多くありました。私の家も九州北部豪雨によって被害に遭い、自然災害の恐ろしさを身をもって感じています。

また、生まれ育った丸山町がこの度、市の防災整備によって区画整備されるため、この町に建つ住宅を設計し、私なりに対策を考えました。

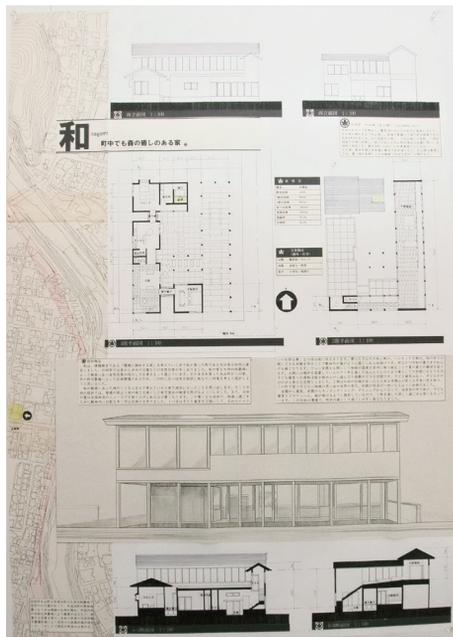
私が被害に遭った時のことを踏まえて考えていると、床下浸水になったことを思い出します。そこで今回の設計では、普通の家より床を高くして床下浸水の被害を防げるようにしました。また、日田の夏は全国放送のニュースでも取り上げられるほど暑くなります。

この暑くなる日田で、快適に過ごすために、敷地内に日陰を多くつくる仕掛けをしました。一つ目は子ども寝室を2階にして広めのピロティーをつくる、二つ目は庭に柱を立てます。暑いときは、その柱に帆にハンモックを掛け、柱の木々の間にできる木影をつくることで、敷地内が森のように感じられる仕掛けです。

町中で日田の暑さを和らげる森となります。さらに玄関を土間にして地面の温度を室内に取り組むことで、夏の暑さの解消を図ります。土間には暖炉を設置しているので、1年を通して友人たちとの「たまり場」としての空間にもなります。子ども寝室への通路は庭を眺めながら遊んだり、読書ができる空間です。子ども寝室は広く、子どもがのびのびと使える空間にしました。

2階は日田のお城があったとされる月隈山が見える方角に窓を取り、この町で育つ子どもに地域の思い出や自然の変化、伝統が生活の一部となるように仕掛けました。

玄関から寝室、玄関からキッチンダイニング、ダイニングからリビング、浴室前の吹き抜け、子ども寝室とピロティーと、風が抜けるように設計しているので、1年を通して涼しく過ごせる家にもなっています。この日田の環境で、町中の森として過ごしやすい家となりました。



日田林工
梶原 大暉